

「東京水道経営プラン2007」の策定にあたって

東京都水道局では、この度、平成19年度から平成21年度までを計画期間とする「東京水道経営プラン2007」を策定いたしました。

本計画は、目標管理と成果重視の視点に立ち、都民への説明責任を果たしていくため、東京都水道事業経営問題研究会における幅広い観点からのご意見などを踏まえ、3年間に取り組んでいく施策の事業計画と財政計画を明らかにしたものです。

都の水道事業は、明治31年に近代水道として通水を開始して以来、最も重要な都市基盤施設の一つとして、都民生活と首都東京の都市活動を支えてきました。

しかしながら、都の水源は、湯水に対する安全度が低いなどの課題を抱えていること、現在の施設の中には、老朽化による機能低下やバックアップ機能が不足するものがあることなど、施設水準のさらなる向上が必要です。

また、国の中央防災会議で首都直下地震の切迫性が指摘されるなど、震災対策の重要性が増してきています。

さらに、「蛇口離れ」が進行するなど、水道水に対してより一層の安全、安心が求められているほか、都民ニーズの多様化・高度化を背景に、お客さまにとって利用しやすいサービスの提供など、様々な取組が必要になっています。

地球規模で深刻化する環境問題などに対しても、公営企業としての社会的責任を果たしていくことが求められています。

こうした中で、東京水道が首都東京を支えるライフラインとして、その使命を全うしていくために、次世代を見据えて、ハード・ソフト両面にわたり、より信頼性の高い水道システムを構築していくとともに、質の高い水道サービスを展開していきます。また、蛇口から直接水を飲むという日本の水道文化を次世代へと引き継いでいきます。さらに、近隣事業体との連携を深めていくとともに、世界に誇る東京の水道技術を国内外へと発信していきます。

また、今後も、民間に委ねられる業務は可能な限り民間事業者に委託していくとともに、基幹的業務について、水道局と監理団体が一体的な事業運営体制を構築するなど、強固な経営基盤を確立していきます。こうしたことで、公共性と効率性を両立させながら、将来にわたり、責任をもって安全でおいしい水を安定的に供給していきます。

東京都水道局では、これまで培ってきた歴史と伝統を引き継ぎ、「次世代に向けた新たなステージの展開」に、全力で取り組んでいきます。